

令和7年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】
 夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学ぶ力を高める。

【学校 目標】
 ICTを活用したクラウド環境の中で学びを深め、
 「読み解く力」の視点で練りあう授業の推進
 ～グループでのカンファレンスの往還による授業改善を通して～

【現状と課題】
 ○視点1: 子どもたちが主体の授業づくり
 (1)一人1研究授業の意識を持って取り組めた。一方で、「読み解く」に意識が十分に持てていない状況がある。日々の実践の中で、「読み解く」の視点を意識しながら「学ぶ力」を高めていける授業改善の方策を探求する必要がある。
 ○視点2: 学びを支え合う集団づくり
 (1)教員によって協働的な学び、話し合いの活動を取り入れた授業の頻度に差がある。話し合いの取り組みが、少ない教科もある。大前提として、安心して発言できる集団をつくりたい。
 (2)日々の実践で、授業中の子どもの発言をいかしていくことで、集団づくりや、仲間意識を育てていきたい。
 ○視点3: 協働して取り組む学校づくり
 ・少人数で授業改善のカンファレンスを定期的実施できてきている。一方で、グループ全員集まっての研究会が十分にとれていない。若手教員が増える中、互いに高めあえる教師集団となる仕組みを作っていく必要がある。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】
 ※達成状況の割合(%)は、目標数値に対しての達成状況の割合。評価指標が50%の場合は、A:45%以上、B:35%以上となる。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①生徒一人ひとりの「読み解く過程」の質に焦点を当てた授業改善を行う。 ②一人1台端末を活用して、学習内容に理解を深め、考えを共有させる。	①「普段の授業で、「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりを行っている。」での強い肯定回答30%以上		
	②「ICT機器を活用し、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」での強い肯定回答30%以上		
	③「ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」での強い肯定回答30%以上		
【視点2】学びを支え合う集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①ペア・グループ学習の積極的導入による、協働的な学びを取り入れた授業を日常的に行う。 ②体験活動、各授業を通して、互いの意見を認め合う集団づくり。	①「PC・タブレットなど活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる」での強い肯定回答30%以上		
	①「普段の授業で、子どもたちが交流する時間を設定できている。」での強い肯定回答50%以上		
	②「普段の授業で、子どもたちの発言等を生かしながらまとめをしている。」での強い肯定回答30%以上		
【視点3】協働して取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①校内研究・研修でWGをいかして授業改善と授業実践の交流を行う。 ②協同的に実践を進めていく教師集団を横断的に構築していく。また、WGを拡張したOJT推進による若手教員の育成、とMLの指導力向上。	②「子どもたちが安心して、意欲をもって学べるように環境をつくることができている。」での強い肯定回答50%以上		
	①WGの重要性、有用性を感じて、日頃からの同僚の授業の参観とOJTによる若手教員の育成。		
	②各グループでのスケジュール調整をすると共に、全体への周知と、計画的な授業研究の推進。		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・職員への概要説明、向上策の共有(4)
- ・教師による授業の意識調査(4・7・12)
- ・全体校内研究会「グループ間の交流」「講師を招いての講話」「学学調査結果からの教科の取り組み」(8・1・2・随時)
- ・人権学習授業研究会:人権のつどいの取り組み(11)
- ・年間通じて:小グループ校内研究(各教科での「交流・学び合い」の継続的な取組で縦と横のつながりを強くする。)横断的構成メンバーによる教師5～6人組を1つのチームとし、授業づくり【P】、授業観察【D】、カンファレンス【C】を行い、授業改善【A】へと繋げていく。(横のつながり) OJTによるそれぞれの思いや悩みの共有を行うと共に、研究テーマ別ミーティングによる授業改善。(縦のつながり)

今年度の取組の成果と課題

--